

平成29年度 地域貢献研究助成費 実績報告書

平成30年3月23日

報告者	学科名	保健福祉学科	職名	准教授	氏名	中野 菜穂子
研究課題	岡山県地域子育て支援拠点事業における活動プログラムの構築					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	中野菜穂子	保健福祉学科・准教授	子ども家庭福祉学	総括	
	分担者	周防美智子	保健福祉学科・准教授	子ども家庭福祉学	調査・分析・冊子作成	
研究実績の概要	<p>厚労省は平成19年度から地域における子育て支援の充実のひとつとして地域子育て支援拠点事業を開始した。地域子育て支援拠点事業は、地域の子育て力向上を目的として乳幼児と保護者の相互交流の場を開設し、子育て関連の相談・情報提供・助言等を行うことを主な目的としている。しかし、近年は児童虐待や貧困、ひとり親家庭、親の精神不安など家庭の抱える課題も多様化していることから、地域子育て支援拠点に求められる支援にも変化が生じている。</p> <p>岡山県では、平成29年度125箇所の地域子育て支援拠点（ひろば型、センター型、児童館型）が活動を行っている。地域子育て支援拠点事業が始まり10年を経ているものの、125箇所の地域子育て支援拠点の活動内容は地域性も影響し様々であると思われる。そこで、本研究では、岡山県内の地域子育て支援拠点の実態を明らかにし、地域子育て支援拠点における効果的支援要素や支援効果を抽出し、それをもとに地域子育て拠点で活用できる効果的な支援を検討し、「地域子育て支援拠点における効果的な支援」として冊子を作成する。</p> <p>（研究方法）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究対象： 岡山県内地域子育て支援拠点 125箇所 2. 調査内容 質問紙調査・・・地域子育て支援拠点に現状の活動内容について調査 3. 調査期間 2017年12月 4. 倫理的配慮 岡山県立大学倫理委員会の承認を得て実施 5. 分析 統計ソフト、KJ法による効果的支援要素、アウトカムの抽出。 					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>(結果)</p> <p>125か所の地域子育て支援拠点にアンケート調査の協力を依頼したところ、約7割の拠点186名の方々から回答を得た。</p> <p>地域子育て支援拠点の利用者は、母親と子どもだけでなく、父親の利用も多く、利用者は生後早い時期から来所し利用回数も多かった。利用者は、子育ての交流を求めて来所することも多いが、親子・家族関係で問題を抱えていたり、精神的に不安定であったり、人間関係を築くのが苦手であったり、子育てに自信がないといった課題を抱えた親子の来所もあり、地域子育て支援拠点では、さまざまなニーズに対応しなければならないことが明らかとなった。地域子育て支援拠点活動によるアウトカムでは、子ども同士のかかわりや母親同士のかかわりが深まることで、地域交流の広がり、他者との関係ができ、子育て知識の獲得や子育てへの自信(母親の自己肯定感)を促していることがみられた。その結果、母親の安定が図られ、家族関係に影響を及ぼし、親子関係だけでなく、夫婦・家族の関係の改善効果に働きかけていることが示唆された。すなわち、地域子育て支援拠点の支援は、子育て不安や孤立感の軽減、さらには子育て家庭の安定に効果的であることが明らかとなった。一方、支援の課題としては、『支援計画を立てる』、『利用者に自己決定を促す』、『情報収集をする』、『他機関との連携』、『家族関係の理解』、『子どもの発達を理解』、『暴力・虐待への介入方法を理解』、『伝え方を理解』、『社会資源を理解』、『多様性(多文化・価値観)を理解』、『俯瞰的にみる力』、『会議の進め方の理解』が見られた。</p> <p>これらの調査結果をもとに、子育て領域で活動する専門家、岡山県社会福祉士会子ども家庭福祉委員会メンバー等の検討会への参加協力を得て、効果的支援要素の検討を行い、「地域子育て支援拠点における効果的な支援」冊子を作成した。</p> <p>(今後の課題)</p> <p>今後は、地域の子育てニーズを把握し、ニーズに適した子育て支援に貢献できるよう、今回作成した冊子活用の効果測定を行い、さらなる効果的支援についての検討を深めたいと考えている。</p>
<p>成果資料目録</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域子育て支援拠点における効果的な支援」冊子 ・平成30年度、論文投稿予定